平成三十年稽古納め開かれる
平成最後の稽古納めに128人が参加

12月23日（日）8時30分より三木市民体育館で恒例の稽古納めが行われた。小・中・高生86名、一般会員42名計128名が参加した。

早朝から、剣道連盟会員と小・中学生が1年間稽古でお世話になった感謝の気持ちをこめて、三木市民体育館の周りの落ち葉を集めたり、床に雑巾がけをしたりしてきれいに掃除をした。聞くところによるとこの三木市民体育館は、老朽化のため平成31年度には使用できなくなるそうだ。この体育館で行う最後の稽古納めでもあり、年が明けた5月には、新元号となるので、「平成最後の」稽古納めとなる。

神澤正輝三木市剣道連盟会長の挨拶

連盟としては、一般の稽古会や、三木中央少年剣道教室の定期練習、そして各大会で常にこの体育館を使用し、三木市剣道連盟とともに数十年の歴史を刻んできたゆかりの深い体育館である。恒例の会員にとっては感慨もひとしおだ。

稽古は9時過ぎから始まった。冒頭、開会行事で神澤正輝三木市剣道連盟会長が、「今年の漢字は『災』だったが、今年は地震や大雨、台風などの大きな災害が全国で起きた。三木市でも台風による災害で、田畑に大きな被害があった。また、私たちの先輩で三木市剣道連盟の礎を築いた宮脇義昌第二代会長がご逝去されるという悲しい出来事もあった。しかし、東播地区親善剣道大会で久々に3位という立派な成績を納めた。また、秋には、兵庫県の代表として唯一、我が三木市が男子団体戦1チームが全国青年大会に出場した。次代を担う若い選手にとっては、東京武道館で全国レベルの試合をするという貴重な経験となる出来事だった。これからもさらに盛り上げていきたい」と挨拶。

続いて、秋に見事六段昇段を果たした石田隆さんに、三木市剣道連盟から記念品の袴が贈られた。

開会行事の後、小・中学生が元太刀の先生方と約1時間ほど稽古を行った。元太刀の先生が例年以上に多く、子どもたちにとっては休む間もなくかかることができ、とても充実したいい稽古になった。

石田隆新六段に記念品贈呈

子どもたちが稽古を終えて、帰った後、11時前から約40分間、高校生と一般の稽古会が行われた。年納めとあって、一段と鋭い気迫が道場いっぱいにあふれ、約45分の稽古を終えると、一同正座して三木市剣道連盟小椋治朗副会長が「来年も健康で楽しい稽古をしましょう」と挨拶。平成三十年の最後を締めくくるにふさわしい稽古納め会となった。

参加人数は下表のとおり。

平成30年を締めくくる稽古会

平成30年稽古納め会　参加者数

平成30年12月23日
三木市民体育館

No.	団体名	小学生 男子	小学生 女子	中学生 男子	中学生 女子	高校生 男子	高校生 女子	一般会員	一般会員
1	別所	3	1	2				3	9
2	剣修会							1	1
3	緑が丘	5	3					9	17
4	志染	10	5	1	1	2	1	4	24
5	自由が丘	5	6					4	15
6	中央	4						3	7
7	吉川	3	2			1		2	8
8	平田	4	2					4	10
9	三木中			5					5
10	自由が丘中			2	2				4
11	三木高					3	4	1	8
12	三木東高					1			1
13	小野高								0
14	三木北高					3	2		5
15	吉川高					1	2	1	4
16	一般会員							10	10
	合計	34	19	10	3	11	9	42	128

参加者数　…　小・中・高校生　86
一般会員　42
合計　128

剣道六段　昇段者の言葉

六段昇段審査に合格して

（平成三十年十一月愛知会場

石田　隆

「始め」・「やめ」・「それまで」立会先生の声が会場に響き渡る。

一人一分間の二回の実技審査である。会場も静まり全会場での審査が終了した。しばらくして、「各会場の実技審査の合格者を発表します。合格された方は、直ぐに形審査を実施します。」のマイク放送が流れた。

事務局の担当者二名が合格者の受審番号が記された大きな模造紙を持って足早に迫って来た。受審番号が見えない。「あるか・ないか」運命の時である。

あった「5△△B」。垂れを見た。同じ番号である。素直に嬉しかった。形審査には自信があった。

すべての審査を終え、家内に、いの一番に「合格したで！」と電話を入れた。「良かったね。お疲れさん！」この言葉が聞きたかった。

五段昇段から五年間、週三回の稽古に加え、

・先生の教えを記し、反復稽古をし、体得させるための「剣道ノート」

・稽古日以外の「三百本素振り」

・剣道形の「ひとり稽古」

・六段審査動画の視聴による「見取り審査」

・昇段を目指して等と題した「書物の判読」

等の重ねた修業期間を経て、今年の四月からその審査の場に立つこと三回目の受審での合格であった。

私が修業させていただいている剣道場「紫雲館」の館長は八十五歳である。二十歳から剣道を始められ、八十一歳で七段審査に合格された。

最近、稽古を終えお礼の挨拶を受けていただく際、「このごろは、打たれてばかりや、でも、稽古はするよ！！」のお言葉をよく耳にすることがある。

館長の姿には、ある書物で拝読した全剣連の副会長である福本修二先生の、

「私は皆さんと稽古をして打たれても、心は打たせない。」

のお言葉を思い浮かばせる、その気合・気迫はどこにあるのか。

正に、生涯剣道として剣道という「道」を歩まれているその姿を範としなければならない。

私も、二十歳で初めて竹刀を握り、四十歳ころから稽古を再開しました。その甲斐があり、この度、お陰さまで六段審査に合格させていただき、高段者の仲間入りをすることが叶いました。

これからも剣道という「道」を歩む者の一人として、先生をはじめ少年剣士に至るまで「我以外皆師なり」の感謝の心を忘れず、楽しみつつ、六段剣士としての風格、品位向上に努め、生涯剣道を通して、剣道の理念である「剣道は剣の理法の修錬による人間形成の道である。」を少しでも極めたいものです。

さあ！六年の修業開始だ！！七段審査を楽しみに稽古に精進したい。

感謝